伯剌西爾時報

社長 黒石清作 Director M. Sameshima
發行所 伯剌西爾時報社 電話 七・四六七〇
購讀料 一ケ年 六十圓 半ケ年 三十圓
廣告は御照會次第御返信

珈琲と砂糖
マントス四袋 十キロ一六、九〇〇
リオ七袋 十キロ一三、〇〇〇
註日 相場ナシ
註米 一九、九四〇
註英 七八、〇七〇

旭光輝く新東亞の前途

更生支那に

中央政府樹立工作具體化

汪兆銘、王克敏、梁鴻志の三巨頭間に意見一致

吳將軍起つ

相呼應して

【南京二十一日同盟】汪兆銘は十九日、二十日の兩日に亘り王克敏梁鴻志の兩氏と最初の正式會談をなし、席上汪氏は和平工作に對する自己の決意と具體的方針を說明、更に汪兆銘氏を中心として速かに滿腔の賛意と全幅的協力を表明、次いで中央政府の母體となるべき中央政治委員會の組織に就き汪兆銘より廣く各黨各派無黨派及び在野の權威を集め、委員會を構成する旨の六全大會の決議事項を擧げ、兩政府側よりの全會議參加を勸說、王克敏、梁鴻志兩代表も喜んでそれに參加する旨を表明、茲に巨頭間に完全なる意見の一致を見、新政府樹立に關する一切の具體的準備は一先づ完了した

【南京廿一日同盟】汪兆銘、王克敏、梁鴻志の三氏協議の結果、新中央政權の確立は、愈よ近き將來に實現が期待されるに至つた、武漢特別市政府を始め、廣東、厦門、汕頭、海南島等、西南各治維會及び新大陸の權威は悉く此新政府に參加し中央政府の樹立は必至であるが、重慶政府部内よりも有力者の參加が豫想される一方、吳佩孚將軍もこれに呼應して蹶起するものと見られ、亞細亞再建工作は茲に輝やかしい將來が約束されるに至つた

（寫眞右上は梁鴻志、左は汪兆銘下は吳佩孚）

半月淡き古城の下

我指揮官と三巨頭の堅き誓ひ

山田中將汪氏を激勵、汪氏堅き決意之に答ふ

【南京廿一日同盟】東亞新秩序建設に邁進する中支日本軍最高指揮官山田中將は豫て汪兆銘の和平救國運動を支援し來たつたが、汪が聯合委員會開催の機會に親しく王克敏・梁鴻志兩巨頭と新中央政權樹立に關し具體的協議のため、同志廿數名と來京したので、汪一派の勞を慰ふため十九日南京某所に汪を初め王克敏、梁鴻志等數十名を招待、盛宴を張つた、席上山田中將は汪氏は身命を賭して反共和平救國の大運動に乘り出され、此間不幸同志にして兇手に斃れる者もあるに拘らず、益々勇猛心を振ひ、臨時、維新兩政府當局の絶大なる協力の下に活動を繼續せられ、今

支那全租界に駐屯する英佛の守備兵總引揚か

ロイテル通信の報道

【ワシントン廿日R】駐米日本大使は本國よりの報道として、支那租界駐屯の英佛守備兵は全部本國へ引揚げることになつたと新聞記者團に語つた

東洋史の一頁に紅線引く歷史的會談

秋色濃き南京で三巨頭の協議重大性含む

【南京廿一日同盟】臨時維新政府は率先して國々在の政治運動に對し支持の態度を表明したが遂に十九、廿の兩日總正國民黨を代表する汪兆銘氏は秋色濃く深く緊張の氣漲る南京に於て兩政府首腦者たる王克敏、梁鴻志兩氏と會合した、汪氏は從來共に別個に兩氏と數回會見を遂げてゐるが、三巨頭團を組んでの會見は今回を以て嚆矢とするものであつて、同會談の結果その意見全く一致し、愈々近く各黨各派代表も一堂に會し中央政治委員會を開くことに決した、右は新中央政權樹立の基礎を決定するものであり、歷史的意義極めて重大である

◇ ◇ ◇

駐ソ波蘭外交官

ルーマニアへ總引揚げ

【モスクワ二十日同盟】駐蘇ポーランド大使館は、レニングラードミンクスの各領事館員をも併せて二十一日モスクワ出發、一先づルーマニアに引揚げることになつた

新中央政府の母體

中央政治委員會の巨歩動く

【南京廿一日同盟】汪兆銘、梁鴻志、王克敏會見の結果、近く中央政治委員會開催に決定したことは、新東亞政治史に不朽の一ページを飾るものとして國民黨第六次全國代表大會の決議で中央執行委員會主席に推された汪兆銘氏は爾後各黨各派、無黨無派の代表的人士を糾合して中央政治委員會を創立すべく、積極的行動を起してゐるものであつたが今回兩總目政權首腦との會見で和平建國の實現のためには速に中央政府樹立の用意、その副産として中央政治委員會を組織し、以て新政府樹立の具體的方策を審議すべきであるとの結論に三者一期せずして到達した、かくて新中央政府樹立を中心として汪兆銘氏と新中央政府に聽せ參すべき各黨各派中最も有力なる親行たる臨時維新兩政府首腦の完全なる握手を遂げ、無黨無派の代表的人士を糾合して中央政治委員會を創立すべく、積極的行動なる握手となり、中央政府樹立の母體となるべき中央政治委員會の巨歩動く

支那民衆の最大關心事

戰爭中止と和平招來

孫駐日辨事處長喜色滿面語る

【東京廿一日同盟】新中國を育成して東亞新秩序建設に協力する支那中央政權樹立の具體化が傳へられた廿一日麻布の中國駐日辨事處は靜寂の裏にも喜びの表情が溢れて國の數國和平運動の裏に三千人の支那人達にも大きな期待を懷かせてゐたものだが、新中央政權の誕生が傳へられて以來といふもの、日夜毎この駐日辨事處を訪れて新しい中國について語り、處長の孫是を激勵する支那人が多い、廿一日朝を通ずると孫處長は希望に滿ちた明るい顏で次の樣に語る

支那の國民が一番心に感じてゐることは、如何にして早く日支の戰爭を止め、平和を到來させるかといふ事なのであります、汪先生の運動が今朝又一圓進を遂げ和平實現の日が近づいたと云ふことは、支那國民にとつてどんなに大きな喜びでせう、中國政治の底流をなすものは經濟インテリですが、新しいインテリ達が廣政權を離れて汪先生の傘下に集まりつゝあることは、新中國を育成して起つべき中央政府の將來に明るい希望の光を投ずるものであります

◇

杉山大將

大連に到着

【大連廿二日同盟】前北支軍最高指揮官杉山大將は、內地へ歸還の途二十日午前十一時五十分振替機で大連着、直ちに宿舍星乃家に入つた、二十一日出帆の鴨綠江丸で內地に向ふ

援蔣ルート殆ど停止

重慶政府抗戰力弱化一途

【東京二十一日同盟】確實なる情報に依れば、僅に殘されたる援蔣ルートたるテンエ緬の二路は、最近連續爆撃に滅遂し、次の如く殆ど停止に等しき狀態にある重慶政府の抗戰態勢を益々弱化せしめてゐる

テンエ緬鐵路同ルートは山岳起伏して元來地盤固からず、全線の三分の一は單線で鐵も脆弱なため、事變以來ハイフォンには常に陸揚せる滯荷が山積の狀態であつたが、過般來重慶政府は運輸當局に命じ、約五千噸の兵器、機械類を定量貨車上に積載せしめ非常な無理をして輸送せしめたため路線は最近一段と崩化し、この一ケ月間内で四回も頓挫事故を起し、多數の死傷者を出した、河内より昆明まで五十三時間も要し、一日の輸送量僅に五十七噸に過ぎず、その軍事的利用價値は殆ど喪失した

昆明を基點としビルマとラングーンを結ぶ鐵道計畫線も技術資材の不足で行悩み、專らトラック輸送によつてゐる、このため昆明だけでも資本金五百萬元の西南公司以下大小二百餘の運搬公司が設立され千輛以上が昆明、ラングーン間を往復してゐるが然し行程が長いので晴天の際でもトラックの不足不揃ひのため修理などにも支障を來してゐる上、雨天の際は全部運行不能に陥るといふ有樣で、現在の輸送材料は、航空器材、機關器、彈藥などが主で航空器材は一旦昆明の航空機貯庫に入れられるが、彈藥類は昆明より水路で四川省叙州に辛ふじて輸送してゐる

日支提携の大役擔ふ

維新政府留學生來る

【橫濱廿日同盟】橫濱に入港した郵船鹿島丸で維新政府に選拔され二年間東京帝大に留學する呂約翰、蔣約章、汪克明の三氏が來朝した、何れも新支那を背負ふ有望な學生で一時將介石を校長とする廣東黃埔軍官學校に在學したことのある呂君は語る

事變以來政權のため、支那民衆は苦るしめられたゞけであつた、皇軍の入城以來廣東は滅の平和に立還り、市民は大喜びです、私達は日本で大いに勉强して日支提携のため御役に立ちたいと思つてゐます

先づ臨時維新兩政府

首腦との了解を痛感

汪氏と記者團一問一答

【南京廿一日同盟】汪兆銘氏は廿一日午前八時より約三十分間に亘り南京に於て日支記者團と會見、今次南京會談の結果、其の他當面の諸問題に就き左の如き一問一答を試みた

問 先般の國民黨六全大會では國民黨外の各黨各派に同樣眼の主なる人士の會談を見たが理由如何

答 凡そ戰敗の後に新國家を建設するといふことは非常に困難な大事業であつて、これは全國各方面の有力なる人士が一致協力してその責任を負擔したのでなければその完成は期し難い、中國國民黨が、六全大會を擲いて各黨、各派と聯合し中央政治委員會を組織し大計を決すべきことを講決したのも右の理由に基くものである、現に自分は在野各黨派と夫々具體的折衝を進めてゐるが、先づ臨時維新兩政府首腦部と了解を遂げる必要があつたからである

問 會談の結果如何

答 王、梁兩氏はじめ兩政府首腦部各位と、忌憚なき意見の交渉を行つた結果、中央政治委員會組織の準備に取り掛ることが出來た

問 新中央政權樹立に對する擁護を承りたい

答 中央政府の問題は中央政權樹立後でなければ申し上げかねる

ユーゴスラビア

ソ聯と不可侵條約

【レオグラード十九日同盟】信ずべき筋の情報によれば、ユーゴースラビア政府は目下ソ聯政府との間に國交開始並に不可侵條約締結に關し交渉を運めつゝあり兩國間には既に殆ど了解が成立したと謂はれる、これと關聯して數日前セルビア農民組合長ポヤ・ツルガビッツ氏が外交官及び商官數名を同伴してモスクワに赴いた事實が判明、ユーゴ・ソ聯兩國關係が急轉改善を見るに到つたことは、全バルカンの勢力關係に重大な影響を及ぼすものとして注視されてゐる

新生上海に都市計畫進む

【東京二十一日同盟】黃浦江下流の市政府跡を中心とする大上海新設計畫は內務省計畫局の指導の下に日支合辦の上海恒產公司が（資本金三千万円）都市計畫案を決定、昨年末から、道路、港灣、河川、建築用地、綠地を含む都市計畫全圖に亘る工事に着手したが今回同公司から內務省に對し新上海に醸殺の防空施設を施行するため其の方面の專門的技術者派遣方を依賴して來たので、愼重詮衡の上、計畫局の防空技師佐倉英記氏、新海管部氏を派遣するに決定、兩技師は來る二十七日出發大体一ケ月位上海に滯在、設計並に實地指導に當る

波蘭處理

技術的打合せか

【倫林廿日同盟】ポーランドに於る軍事行動一段落と、獨蘇兩軍の關係が注目されてゐるが、十九日獨逸の高級將校より成る獨逸軍事使節が空路モスクワに向け出發した、右はポーランド獨ソ兩軍の活動範圍及び、占領後處理さるべき諸問題に關する技術的打合せのためと解はれる

佛軍よく獨軍の猛襲阻止

巴里に達した情報

【巴里十九日同盟】聯絡より巴里に達した情報によれば、十九日早曉著しく增强された獨逸軍はタンク、重砲並びに飛行機の掩護下に依然フランス軍各陣地に向ひ突擊し來つた、然しフランス軍は新に確保陣地を利用し、此れに機關銃の全火力を集中、克くその進擊を阻止してゐる、軍事專門家筋では攻擊軍を見て總攻擊に移るための準備行動なりと見てゐる

◇ ◇ ◇

時雨八荒

日岐武

（百九十二）

僧と女（十四）

左近は、がつくりと見廻したけれど、それらしい者は見えぬのだ。

「新、何處に居る」

「あそこにおるでなさります」

と、指さす。

門ふの隅に衝立があつて、禿た坊主頭が、半分はど見えてゐる。

「よし」

と、ニヤリとした左近は、濕み合つて足の踏み場もないやうな客の間を、押し分けるやうにして、二足三足行きかけた途端、

「痛ッ」

と、誰かが大聲で怒んだ。足を踏んでしまつたらしい。

余りにその聲が大きかつたので、部屋中の眼が、左近の方に集まつた。寢てゐた者も吃驚して、起きあがつた。

さすがに、左近は、ひやりとした。

「許せ」

と、振りかへつて見ると月代をのばした浪人体らしいのが、足の爪先を手でおさへながら、ぢろッと、下から見上た。

（憎い奴の足を踏んだものだ）

と思つて、あわてて、

「悪かつた。許せよ」

と、あやまり直した。

「街道ぢやないんだ。橫柄面して通るな！」

浪人は、歯切れのいゝ口調で云つた。

左近は背後に聞流して、衝立に近づくと、

「おい」

と、聲をかけた。

すると、僧は顏をあげたけれど、女は、他向いた儘である。

「用ぢやムるかの」

僧は平然として訊ねかへした。

「そもなぞに、用はない。わしは、その女に用があつて來たのだ。これ、紫鐵！」

「待たつしやれ！」

老僧は遮るやうに聲を高めた。

「これは意外のことを仰せぢや。これは愚僧の嬶ぢや。かりそめにも、叔父たる愚僧に用はないとは、奇怪な言葉ではござらぬか」

「叔父！」

左近は、鼻先で笑つた。

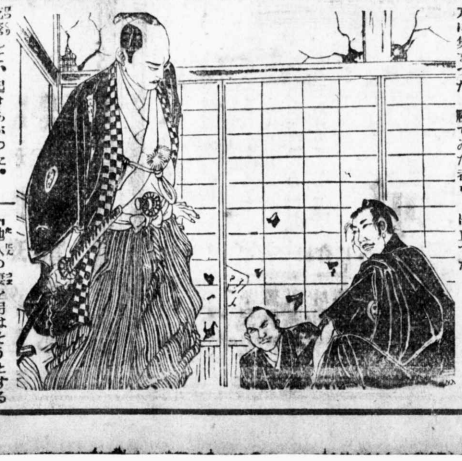
「とんだ叔父坊主だのう。わしの女房を連れ戻さうといふのに、不思議はあるまい」

「愈々奇ッ怪至極ぢや。愚僧の嬶は未だ曾て、男に入した經驗はござらぬぞ。女房だなどと、とんでもない間違ひぢや」

老僧は腹を立て、口を尖らせた。

「これ、和尚！」

左近は、左近で、聲を荒らげ立てた。



「他人の妻を拐はそうとする貴樣こそ、奇ッ怪至極ではないか！」

「これは人聞きの惡い言葉ぢや、人妻をたぶらかしたとはみ佛に仕へ申す愚僧の、恐びがたき暴言ぢや、これさ、お武家、わしが、いつ貴殿の妻を奪ふた、さアさ、はつきと申して下されー！」

「黙れ！」

左近は、喝つた。

「盜人猛々しいとは其方の事ぢや、それなる女が、何よりの證據ぢや」

「ホウ、これは面白い。これなる愚僧の嬶が、どうでも貴公の奥方樣と申すなら、ようく、とご覽じろ。他人の空似と云うこともムるぞ。第一、人妻たる女子が、高島田の髮を、つけて居りますかな、これさお武家、自分の女房の顏を忘れは致されまい。とッくと、眼を開いてご覽じろ！」

成程、さう云はれて見れば、何時の間にか高島田に結つてはゐるが、確かに紫鐵に違ひはない。

「黙れ！」

左近はまた喝つた。

敗戰の波蘭政府

佛領某地に政府機關開設

（巴里二十一日同盟）ドイツ軍に追はれ首都ワルシヤワを放棄して、ルーマニア領内に遁入したポーランド政府は、近くフランス領内に移轉し、フランス政府承認の下にフランス領某地に政府機關を開設し、ポーランド政府としての形骸を存續することゝなつた。政府の再組織を終れば各國に對し交戰國としての保障を求めるものと觀られる

總攻擊の態勢を整備

佛軍の前進 基地襲擊を續行

【巴里廿日同盟】西部戰線の一大會戰切迫と共に獨逸軍は全線に亘りフランス軍陣地に對し、隔日に計畫的砲撃を加へて探りを入れ、又獨逸軍警戒隊はフランス兵を捕虜としてその作戰を知るべくフランス軍の前進基地彈薬を襲行し、着々總攻擊の態勢を整備しつゝあると讀はれる、官邊筋では獨逸軍が獨逸、ベルギー、オランダ三國境の交叉點たるアーヘン附近に集結してゐるとの報を重視し、獨逸軍は前大戰同樣ベルギーを樞軸としてフランスに進撃するのではないかと憂慮してゐる

一方中立國觀戰者は、獨逸軍の總攻擊計畫は、マンチル、ブリーズ、ブリュッケンホーフ、ルの三河が相合して自然の地形を形成してゐるザールブリュッケン東方地帶四十キロに亘つて行はれるだらうとの見解を懷き、右は信ずべき根據があるとしてゐる

西部戰線各方面に獨砲兵活潑に行動

フランス軍司令部發表

【巴里廿日同盟】フランス軍司令部は廿日夜左の如く戰況を總表した

獨佛戰線各方面に於ける獨逸砲兵隊は廿日も我軍に對し活潑に砲撃を加へ來つた、クチューに於ては彼我空軍迫撃機が數回に亘つて戰鬪を交へた

波蘭戰線一段落告げ 獨軍西部國境に集結

ザール炭田を繞り一大會戰展開

【パーゼル廿日同盟】ポーランド戰線の一段落と共に、獨逸軍は續々西部國境方面に集結しつゝあり、一方フランス軍もジ・グフリード要塞總攻擊の軍隊配備を完了した模樣で、盛々ザール炭田を繞つて獨佛兩國軍に一大會戰が展開される形勢にある、右につきスキス軍事專門家は、フランス軍の總攻擊はおそらく左の方面から開始されようと觀測してゐる

一、モーゼル河及びルクセンブルグ河左翼を掩護し、ザール河に據つて右翼を防衛されてゐるジエーエル北端

一、最右翼のピッチ北方

寺内大將大本營でヒトラ總統と會見

【伯林廿一日同盟】寺内大將はヒトラー總統と會見のため、廿日午後一時隨員若干同の上テンペルホーフ飛行場から特別仕立の軍用機で東方に向つて出發した、總統大本營に直航するものと豫はれてゐる、日本側からは大使館武官川邊少將、獨逸側からは外務省極東部長クノール及び國防軍の係將校フオン・レーネル少佐の他通譯としてシヤールシニット教授が同道してゐる

【伯林廿日同盟】ヒトラー總統は廿日東部戰線大本營に於いて寺内大將並びに隨員一行と會見した、會見には大島大使及びリッベントロップ外相も同席し、大將一行は戰跡視察に赴いた

ソ聯艦隊による諸港封鎖說

エストニア官邊否定

【タリン廿日同盟】エストニア官邊は同國レタ通信を通じソ聯艦隊によるエストニア諸港封鎖說を否定、左の如く述べてゐる

ソ聯海軍がエストニア諸港を封鎖せりとの報は、事實にルするものである、モロトフ外交人民委員長は、駐ソ、ライ公使に對し、ソ聯海軍はポーランド潛水艦狩のためフインランド灣に出動する旨を傳へただけである、エストニア海軍もタリン港より遁走したポーランド潛水艦を積極的に捜索中である

獨伊ソの三國巨頭近く伯林で會合

Um "comité de ação" com Hitler, Mussolini, e Stalin.

伯林よりの確報によれば來週中に獨逸のヒトラー總統、伊國のムソリーニ宰相、ソ聯のスターリン三巨頭が伯林に會し、その結果によつては日本へも會議へ出席すべく通知を出す筈である、なほナチス黨最高幹部の談に依れば獨逸四列强國によつて實行委員會を組織し、各國の立場より事件を協議するものであると

獨乙政府當局 革命暴動說を否定

【伯林廿日同盟】ドイツ政府當局は二十日英國情報省の發表、廿日午前までの戰況

一、獨逸軍占領地帶に於けるポーランド軍の抵抗は、僅に

一、獨逸軍は全力を擧げて西部國境に作戰することになつたが、廿日獨逸軍最高當局の談るところによれば、ヒトラー總統は、ダンチッヒ訪問終了次第西部戰線に急行して、總指揮の任に當ると謂はれる

ヒ總統西部に急行 作戰の總指揮に當る

【伯林廿日同盟】ポーランド作戰の完了に伴ひ、今

一、ダヂニア攻略戰は十九日

にモドリン市及びその南郊並にワルソーを中心に行はれたのみである

東部戰線戰況につき獨乙軍司令部發表

【伯林廿日同盟】獨逸軍司令部發表、廿日午前までの戰況

一、獨逸軍は廿日夜左の如く戰況を總表した

獨佛戰線各方面に於ける獨逸軍は廿日も我軍に

同軍港の占領を以て終了したが、同地方に於ても數千のポーランド兵を捕虜とした

一、數日來ザモッチの南方に於て、頑强なる抵抗を試みつゝあつたポーランド軍は廿日に毛皇塞に投降し來りポーランド軍南部方面軍最高指揮官ビストール將軍はじめ歩兵二個師團及び騎兵師團夫々一個旅團合計一万一千以上を捕虜とした

一、西部戰線方面は局地的に

ヒ總統西部に急行 作戰の總指揮に當る

【伯林廿日同盟】ポーランド作戰の完了に伴ひ、今や獨逸軍は全力を擧げて西部國境に作戰することになつたが、廿日獨逸軍最高當局の談るところによれば、ヒトラー總統は、ダンチッヒ訪問終了次第西部戰線に急行して、總指揮の任に當ると謂はれる

歐洲戰と伯國棉花 日本が唯一の大顧客

A guerra e algodão Paulista

長期戰か即時平和か歐洲の雲行きは目下の處見透しがつかない當國各輸入業者は拱手傍觀の体である、聖州農務局では次年度棉種子の配布を開始してゐる、"日本人と棉花"棉花問題は在留邦人にとり最も重要な部門を占めてゐる、來年度の棉花界は吉か凶かそれについて一伯字紙は東洋に日本といふ大顧客が控へてゐると樂觀論を唱へてゐる、以下はその要譯である

聖州農務局では既に一九四〇年度の棉花栽培の準備に取掛つてゐる、今日迄の報告によると、棉栽培面積は增加する見込みであるが、然し今回の歐洲戰亂によつて來年の收穫棉花が如何なる狀態になるだらうかを考慮する必要がある、即ち現在の歐洲情勢が直ちに歐洲經濟狀勢に影響し、從つて來年の伯國棉花が歐洲へ幾何賣れるかは豫想がつかない現狀にある、大体より見て來年度は歐洲向けの輸出は非常に減少するものと覺悟せねばならぬ、其現象は既に本年度に於て現れて居る、先づ伯國棉花の第一顧客たる獨逸は昨年よりも本年は極少く買、從つて來年の收穫棉花の大なる顧客は歐洲にはないものと見ねばならぬ、歐洲は目下戰時体勢に入り各國互に外國貿易を封鎖し、伯國の原料品が輸入出來るのは只伊太利、若しくは中立國だけである、一方英佛は從來伯國棉花の良き顧客であつたが、現在の戰爭に北米と敵味方に分れ、上また通商上北米棉花を買ふ樣になることは明かである、幸ひな事には東洋に日本といふ大顧客がある、今日日本の消費される棉花の一部は聖州より輸出されて居るのである、日本への主なる棉花供給國は第一が英領印度、次が北米、第三位が支那となつて居り、伯國は最近二ケ年は日本消費棉花の第四位に入つてゐる、今日日本の輸入棉花量を見るに

	一九三七年	一九三八年
印度	三八八、〇三五噸	三二一、三六六
北米	三三一、二〇二	一二四、九九九
支那	三三、二二	八六、九一二
伯國	四、八八八	四、八八八

右表により一九三八年度には印度及び北米棉花の輸入が減少して居り、伯國棉花は其年の輸入棉花總量に比すれば前年より增加して居る、而して支那棉花輸入が非常に增加して居る、次に本年度に入つて日本は聖州棉の買付を極度に增加し、本年一月廿日より七月末日迄にサントス港より日本へ輸出せる數は、八万二百七十六噸にして、獨逸・英國等よりも遙かに多量であつたなは其他に支那へ向け四万噸余り聖州棉花が輸出されて居るが、これは支那に於ける日本紡織會社が使用するものであり、孰れにしても日本へ輸出されたも同樣である、實際は本年一月より七月迄に聖州より日本へ十七万九千百六噸の棉花が輸出されて居る事になる、斯の如く伯國棉花が日本の消費市場の主なるものとなつて增加して行くことは、他の如何なるものよりもよいことである、若し歐洲戰亂が長く續いて伯國棉花貿易を憂ますことがあつても、現在日本の如き大顧客を持つて居れば聖州棉花も心强いことである

◇

ボヘミヤ モラビヤ 地方に革命運動發

勞働者のデモ漸次擴大

【倫敦二十日同盟】英國情報省は二十日ボヘミア、モラビア及びスロバキア國に於る暴動說に關し左の如く發表した

確なる筋の報道に依れば、九月十七日ボヘミア及びモラビア地方に革命運動勃發

勞働者のデモは漸次擴大しこれが鎭壓に當つた警官隊との間に深刻なる衝突を起し、革命團は橋梁鐵道並び工場を破壞した、尙スロバキア守備隊も十九日蜂起に於て反亂を起した

獨乙政府當局 革命暴動說を否定

【伯林廿日同盟】ドイツ政府當局は二十日英國情報省の發表したボ（ミヤ、モラビア兩地方に於る革命暴動說を正式に否定した、更にボ（ミヤ、モラビア總督ノイラート男は外國新聞記者でドイツ政府の否定を信じない者は自ら同地方に赴き實狀を調査する樣示唆した

ヒ總統のダンチヒ演說に應へ 英首相下院で長廣舌

戰爭續行の決意を闡明

【倫敦廿日同盟】英國下院は廿日午後二時四十五分再開された、此日チエンバレン首相がヒトラー總統のダンチッヒに於る演說に應へ、又蘇聯のポーランド侵入に對する英國の態度を闡明する演說を行ふといふので傍聽者は議員の盛況、外交團席は重光大使、マイスキー蘇聯大使の姿も見え、注目を惹いた、チエンバレン首相の演說は午後一時五十三分から開始されたがその要旨左の通り

一、英國が戰爭の目的とするところの一つは、戰爭を防止し、統爭の平和的、且つ公正なる解決を許容する如き精神に立脚した國際的制度の確立にある

一、蘇聯のポーランド侵入は全く豫想されなかつたことでは無かつた、これはポーランドにとつては最も悲慘なる性質の悲劇である、然し此の蘇聯の行動の動機及び結果に關し、最終的完結に就き言明することは未だ尙早の感があるのである

一、潛水艦撃滅工作は迅速且つ極積的に行はれ既に六七隻が完全な撃破を受けた

一、英佛兩國が最後まで戰爭を續行せざる決意に變更はない、ヒットラー總統がダンチッヒに於いて行つた演說も何等事實に變更を來すものではない、我々全體としての目的は、獨逸の侵略をいふことから絕へず襲ひ來る威嚇より獨逸を救ふことに在る。如何なる威迫も我々と我々の同盟國フランスをして此の目的を變更せしむるものではない

一、ヒトラー總統の如く自國威迫の言を吐くのは英國のとらぬところである、ヒ總統が戰爭を導出した諸事應に就て行つた聲明が正確なりとは吾人は考へないのである、又ドイツが戰爭發行につき人道的な方法を嚴守してゐるとの主張も疑惑を懷かざるを尊ない（寫眞はチエンバレン英首相）

外國船出入禁止

【モスクワ廿日同盟】蘇聯政府は廿日モスクワ駐在各國大公使館に對し蘇聯海軍はフインランド灣に機雷を敷設し白海の外國船舶出入を禁止する旨通告した

ル大統領各黨領袖集め 問題につき協議

平和維持 今議會で中立法修正案を審議

【華盛廿日同盟】ルーズベルト大統領は明日の特別議會開會の前に、廿日ホワイト・ハウスに民主、共和兩黨、上下兩院領袖の參集を求め米國の中立維持問題につき意見の交換を遂げた、會議終了後ホワイト・ハウス當局はステートメントを以て右問題については不偏不黨の精神を以て處理することに完全意見の一致を見、且議會豫算中立法修正案審議すべしといふことは勿論外交委員の支配的見解であると說明した

（寫眞はルーズベルト大統領）

シミツ病院内
ほれつぎ專門
ミナス州カペラバ市
松尾德市

DR. OVIDIO PORTUGAL DE SOUZA
眼科
耳鼻咽喉科
ドットル
オビヂオ・ポルツガール・デ・リウザ
ソロカバナ線
オウリンニョス驛
（小早川旅館にて御案內致します）

シチオ賣り度し
場所 ジュキヤ驛より三キロメートルの地點
驛に近く至便の地
賣り度し亦は希望依り借地す
御照會亦は御希望者は
サンパウロ市
Rua Dom Duarte Leopoldo, 458

マリリア市へ移轉御挨拶
私儀永らく當組合醫療部藥劑師として在職中は一方ならぬ御指導と御鞭撻を賜はり厚く御禮申上候
就而今般當局醫藥の爲マリリア市に移轉致す事と相成り候
實は一々御訪問の上御別れ申上度き筈の處其の意を得ず紙上を以て挨拶仕り候
九月廿一日
コチア產業組合
組合員 藥劑師 岡川秀春
從業員 各位

私儀永らく聖市居住中は諸賢の御懇篤なる御交友を辱なふし有難く御禮申上候
就而今般當局醫藥の爲マリリア市に移轉致す事と相成り候
實は一々御訪問の上御別れ申上度きも多忙の爲其の意を得ず紙上を以て挨拶仕り候
追而薬局は同市サンルイス通り一〇六九番に於て開業可仕候間何卒從來の御引立の程偏に御願上候也
敬具
九月廿一日
藥劑師 岡川秀春
辱知各位

私は、常に豫防します
妾のポルサには、常にカフイアスピリーナのセロフアン紙小包を携帶して居ます。
何時でも何の痛みに襲われた時でも直にこれを用ひて健康を保つて居ます。
カフイアスピリーナは何の痛みを味はふ事もなく、妾の毎月の月經を無事に經過させてくれます。
BAYER
CAFIASPIRINA
風邪や、總ての痛みに即効ある
絕對に信用おける藥です
頭痛や御婦人方の月のもの痛みにも宜しい

強く育てよ！
驚い子には昔から有名な長森の救命丸を與へて、强い、丈夫な第二の國民を創りあげるのが母體方の義務です
救命丸
「小兒五疳 驚風、引風、吐乳、等」に合場なし
本店 富山市堀端町
ブラジル國サンパウロ市 郵函 四一二八
ブラジル支店 長森聖榮堂

下腹のいたみに
一番よい中將湯
痛いッ——とへたばるやうに下腹が引つり痛むのは殆ど冷え込んだ後とか、月經の不順な方に多い症狀です。血行を整へ、新陳代謝を佳良にする中將湯を召上れば、その原因がスツカリ取除かれるので、婦人病は芯から治り健康溢る體になります。
【主効】
下腹疼痛 月經不順 腰足冷込 肩凝 眩暈 めまひ 神經衰弱 ヒステリー 子宮病 こしけ 產前產後 浮腫惡阻
總代理店 サンパウロ州 マリリア市 瀨木商會
各地有名藥店にあり
株式會社 東京・大阪 天堂 村順 津本舗

妻ままき儀產後急病にて去る九月十三日死去仕り翌十四日ア・マッシャード共同墓地に埋葬仕り候間此段生前辱知諸賢に謹告仕り候

猶葬送の際は遠路態々御會葬被下且つ多分の御香華をも賜はり難有御禮申上候實は一々參上の上御禮申述べき筈の處取込中其の意を得ず略儀ながら紙上を以て御禮申上候

昭和拾四年九月十八日

夫 川口彌七
親族 松岡球磨喜
總代 鶴山重次郎

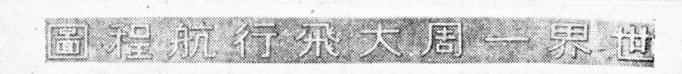
南米の空に翼の日本

パナマを越へコロンビヤへ！

（大毎紐育支社特電）廿一日サンサルバドールを出發した我が「ニッポン號」はカリ市（コロンビヤ國）に向かつたが同日午後一時半、パナマ運河上空を越へた旨入電に接した、貴地（サンパウロ）着は今月廿六日頃と思はれる

邦人の小集團地 "カリ市"

ニッポン號が向かつたコロンビヤのカリ市は、首都ボゴタの西南、ポアベントーラ港の眞東に位置する小都で、此處にはその昔前海與社長井上稚二氏の秘書として來伯したことのある竹島勇二氏經營のバナナ園を中心に相當數の同胞が集團してゐる



歡迎の小旗二千本

さあ！心をこめて振らふ

カリをスタートして「ニッポン號」は愈々機首を南へ、南米への旅に飛立つが、これよりエクワドルの上空で赤道を通過し間もなく同國第一の港市グアヤキルに着く、グアヤキルから首都リマへ着陸、歡迎を受してペルーの海岸線を沿つて、智利に入り首都サンチヤゴに飛びこゝに機首は一轉して東へ、有名なアンデス越えの南米大陸橫斷空路を沿ふてブルゼンチンの首都ブエノス・アイレスへ快翔、方向を北に轉じてウルグワヤの空を過ぎて同廿萬の人口を誇して待ちサンパウロに車輪を印し一泊、整りオむけて飛立つ豫定であるが本社では亞國公使館及びブエノス駐在大使館員高橋信三氏と密接な連絡をとつて萬遺憾なきを期することになつた、尙歡迎委員會でも飛行機で小學兒童が打ち振る歡迎の小旗（日伯兩國旗）二千本の注文をすませてゐるが、その他の準備も着々進捗してゐる

ニッポン号 歡迎委員

日本號歡迎委員氏名は左記の如くである

▲委員長　明穗　梅吉
▲副委員長　蜂谷　專一
〃　田川　清一
▲幹事委員　熊谷　武雄
▲寄附募集委員長　高岡專大郎
〃　熊谷　武雄
〃　坂野熊太郎
〃　古野登良雄
〃　小野　萬祥
〃　古野登良雄
▲秘書　〃
▲連絡係　其他の役員には日本號歡迎に參加する各團体より一名宛選出の豫定であるが、副委員長の田川清一氏はかつて神風號が訪歐飛行の際、印度カラチに於て歡迎委員長をつとめた經驗があるので特に今回も出馬を乞はれたものである

七十年間に於ける各都市の盛衰を探る

當時は北伯が大威張り

As Capitaes dos Estados brasileiros, como têm crescido de 1872 para cá

伯國各州都の人口增減狀態を見れば大体その州の盛衰が窺へると云ふもの――

今から約七十年前の話しだがその當時伯國最大の都會はサン・サルバドール市（バイヤ州）で人口十三万九千余、以下レシフエ、ペレンの順で伯國北部が文化經濟の中心地だつたことが判る

サンパウロ市は僅に三万千三百八十五人でポルト・アレグレ、ポルタレーザ、クヤバ、ニテロイに次いで第八位、今昔の感に堪へない、それから十八年經つた一八九〇年には次の樣に變つてゐた

バイヤ	二三、三三八人
レシフエ	二二、三三五人
サンパウロ	六四、六三四人

即ちサンパウロ市は一躍第三位に躍のし上つて來たのである、そして一九二〇年には

サンパウロ	三三九、〇三三
バイヤ	二六三、三三三
レシフエ	三三八、八三三

一九三八年には

サンパウロ市	一、二三三、八四四
レシフエ市	三三九、八三三
バイヤ市	三六二、九二九

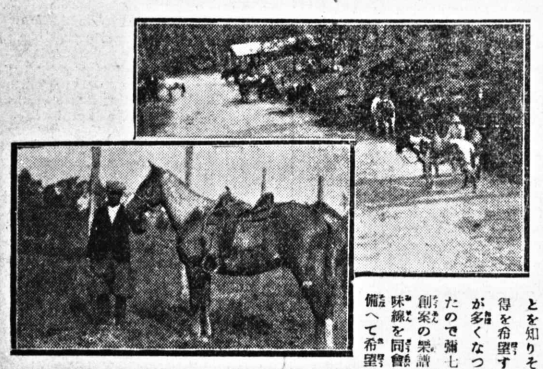
となり、レシフエとバイヤが入れ變つた、次はポルトアレグレ、ペレン、ベーロオリゾンテの順になつて居るがサンパウロのこの急激な發展は移民の渡來が增加したためである、是等州首府以外の都市で十万以上の人口を有するのは十三あるが其内サントス市（十五万）は東北の州都よりも多い人口を有して居る

世に出ぬ天才少年

"世話を頼む"

チエテから依頼狀

チエテ移住地のアントニオ・コエーリヨ君（八才）は書にかけては仲々の天才近隣の評判に上つてゐるが、このまゝ田舍で朽させてしまふには實に惜しい少年の才を讀へる人達がこの程A―O原簡氏のもとに手紙とジユゼ君の書いた畫を添へて苦學でもいゝから繪畫專門の學校に入つて正式に畫を習ひ度いと少年から云つてゐる、何とかお世話して頂く方法はないだらふかと依頼の手紙を寄せて來た。同封の畫を見てみると實にうまく書けてゐる上にもとゞ世話好きの原さん、馬連あちこち聽けばつり廻つて少年の爲めに適當な就職口を探し求めてゐるがどなたかお世話してやらふと名乘り出る特志家はありませんかア――



今夜出發

サンパウロ野球倶樂部

ブルゼンテ遠征に決したサンパウロ野球倶樂部は愈々けふの夜行で聖市を發つことになつたがメンバーは左の如くである

石原、進藤、山岸、谷垣、中林、本郷、砥上、竹田彰佐藤、竹田富、竹田金、吉本、多田（記錄員）竹田仙（矢萩審判）

（寫眞はジユゼ君が某邦人に書いてみると云はれて差出された雜誌をみて、スラ〳〵と書き上げた畫）

米國へ進出する"三味線日本"

お師匠は杵屋彌七

最も簡單の而も最も複雜な音を出す樂器として我が國の三味線は世界獨特のものとされてゐるが、この三味線が米國を始め歐邦諸洲及び新支那を始め各國へ進出、日本音樂の妙音を響かすことになつた、話は變つて東京麻布六本木の杵屋彌七一味線女塾に學ばれたもので米國在住邦人始め彼の地の外人連が樂譜による洋樂器よりも寧ろ容易に彈奏し得ることを知りその修得を希望する者が多くなつて來たので彌七女史創案の樂譜と三味線を同會館に備へて希望者に敎授してゐたが希望者の激增で多數の必要上同塾へ往來し總國產材のみによる三味線の作成に成功したので一般向の樂譜と共に廣く各地の希望者に發送する事になり、紐育へは日本音樂協會を通して彌七女史が自ら敎授に渡米することになつた

ファンの血を躍らせる"南聖ダービー"終る

出場馬三十余頭

イグアペの年中行事となつてゐる第四回南聖競馬大會は既報の如くキロンボ植民地干代丘競馬場で開催されたが今年は遠く桂、ジユキア方面からも四十頭近くの駿馬が出走ファンの血を躍らせた、當日の白眉は郡配氏寄贈の盃及び賞金に賭けられた、結びのレースで結局小野寺平吉氏所有の流星號が勝つたがハラ〳〵させられたレースだつた（寫眞は流星號と場内の一風景）

ソ聯機動快速部隊

ポーランド ルーマニア 國境を遮斷

【電報出所不明】十六日ポーランド南部コロメアを陥れたソ聯ウクライナ作戰部隊は機動快速力を利用して、進擊を續け十九日午後三時にはポーランド、ルーマニアの國境に在るクチーを占據したと讃る、ルーマニアの國境は蘇聯軍のため完全に遮斷され、ルーマニア側では國境を封鎖して逃亡、來るポーランド兵の武裝解除を行つてゐる

蔣介石

四川省主席に就任

【香港二十日同盟】重慶來電によれば、蔣介石は前線出動を命ぜられた王纘齋の後任として、四川省政府主席に就任した旨十九日重慶政府より正式に發表された、既報に重慶市長賈國光は四川省政府顧問に任命された

重要商品市況

九月二十一日

	賣値	買値
棉花四級五三、五敏	五四、五	五四、五
○マンヂョカ粉25瓩入		
○マモナ（キロ瓦）	以下六〇キロ入	
○小麥粉		
一級	四六、	四七、
二級	四四、	四五、
○砂糖		
極上	七一	七二
上等	六九	七〇
○フエジョン		
▲新ムラチニヨ		
スペリオール	九四、	九五、
エスペシャル	八三、	八四、
▲ボン		
〃	八二、	八三、
▲コーレス		
ブ・グラード	四八、	四九、
フラジンニヨ		
ロレンソニヨ	七一	七二
カナリオ		
シユシビーニヨ	三一	三二
○ミリヨ		
アマレリンニヨ	一九、	二〇、
アマレロ	一八、三	一八、四
○アマレロン	一八、三	一八、四
○ブロースアグリア		
エスペシャール	九四、	九五、
スペリオール	八八、	八九、
ボン	八一、	八二、
レグラール	八二、	八三、
▲カテチ		
エスペシャール	四八、	四九、
スペリオール	四七、	四八、
ボン	四六、	四七、
▲メイオ		
▲キレーラ	三〇、	三一、
○バタタ・アマレラ		
極上	四二、	四三、
並上	三九、	四〇、
○キボーラ		
○棉實油	一三、	一三、三
三十キロ	七二	七三
○ペニヤ 南大河		
六〇キロ		
○豚（オオスコ相場）		
アローバ	三二、	
○ゴールド	二八、	
○マーグロ		

求女中

當方伯人家庭にてコツペイラの仕事に從事する獨身の女の方、優遇す

R. Padre João Manoel, 403

シヤルザン・アメリカ區

電話 セー二五〇四

社告

謹啓　各位益々御清榮大賀候

陳者去る十四日在マリリア邦人郵便取扱所は其筋より郵便取扱中止指令を受け目下善處方御協議中の由聞及び各位の御心痛いかばかり大なるかを御察し申上候去れど御協議の結果は近く良解決附くべくと信じ相待ち再候間各位に於かれても暫く御辛抱の上郵便取扱所よりの御指示に御聯絡下さると共に宛名に御數更も生じ候節は新舊は住所併記の上至急御通報被下度此段謹朝上候

一九三九年九月廿日

伯刺西爾時報社

マリリア一帶

本紙愛讀者各位

社告

謹啓　各位益々御清榮之段奉大賀候、陳者今回左記の通り幣支社員を手分けして御伺はせ申候間何卒特別なる御配慮御引立偏にお願上候

伯刺西爾時報社

ブ・ブルデンテ支社

北パラナ
トレスバーラス
ロンドリーナ
ローランヂヤ
ノーバダンチヒ
ランシヤーリヤ
シヤバンテス
タムベチニンカ
イタラレー
方面

本田　彬

ブ・ブルデンテ地方

吉川政次郎
茂木源太郎

尋人廣告

昭和九年渡伯本務能本縣八代郡文政村は恐縮に存じます、右の通現住所御存知の方通知下さい、サロカバナ線パラグアスー郵ピラ・マラカイ郵廻四十一番　三柿惠次郎

山口滿男

タナアミ理髮店

は日本人理髮店中最古の店
最新の技術
聖市コンセレーロ・フルタード街五〇番平旅館隣同じ

デポジト用土地貸す

二〇×五五米突、ガラージ五軒とバラコン付きのデポジト用としては絶好の土地、照會は左記へ

EMPREZA DE IMMOVEIS ALUGADORA PAULISTA. R. São Bento, 45 - 1º and.

ビリアニット耕地全面の土地區劃が終了しつゝあります

土地賣却開始以來一ケ年に四千アルケーレス賣却濟みセーラモレナ驛を中心として良好な土地を賣却いたします

セーラモレナ驛附近の土地賣却開始

尙近々中にセーラモレーナ市街地住宅地を賣り出します

時機を失せず御視察の上土地を選定なさることを御勸め致します

御視察の方は當社ビリアニット事務所へ

サンパウロ・パラナ線ビリアニット驛

日伯產業會社事務所

主任　杉谷茂一

サンパウロ本部　サンパウロ市オンゼ・デ・アゴスト街六六番五階

日伯產業會社

播種界の王者

郵國二〇三

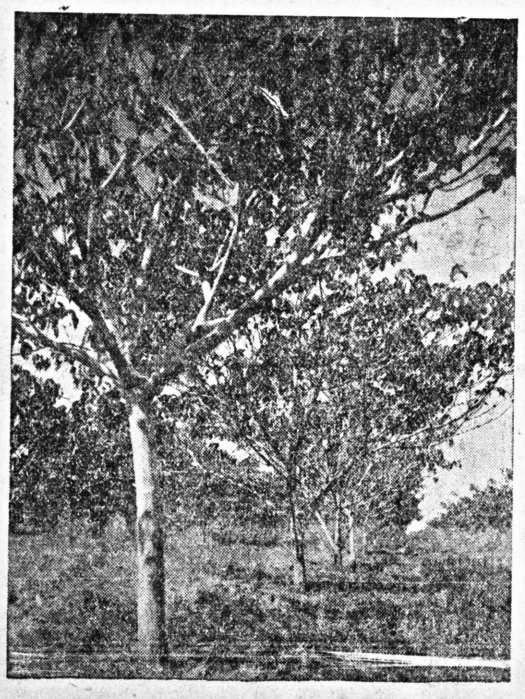
下矢鐵工所

リンス市

此からの農兵法

農は多角法が確實であります、一年作物を前線歩兵とすれば多年生の支那油桐は後方に備へる砲兵であります

支那油桐の蒔付は此からです



多產系（北米フロリダ系）八五％發芽保證

種子　十キロ　二〇〇釘
　　以上　キロ　十五釘

▼栽培に付き知りたい方
▼生產物の販賣販路等につき知りたい方は問合せ下さい

販賣元　時報商事部
地方販賣　各地時報支社
ブ・ブルデンテ市　三浦商店
ポンペイア市　近藤種苗店

Redação- Rua Fagundes, 196
Telephone 7-4670
Caixa Postal, H

Director M. SAMESIMA

NOTICIAS DO BRASIL

Proprietario SEISAKU KUROISHI

Assignatura Anno. . . .60$000
" Semestre. .30$000
Numero do dia. . . . .300 reis

Gerente S. KUROISHI
Redator-chefe M. YENDO

ANNO XXII — S. PAULO — SEXTA-FEIRA, 22 DE SETEMBRO DE 1939 — DIARIO, No. 1994

UM "COMITÉ DE ACÇÃO" COM HITLER, MUSSOLINI E STALIN

BERLIM ANNUNCIA NOVAS CONVERSAÇÕES ENTRE O REICH, A RUSSIA E A ITALIA

Soube-se em uma fonte do mais absoluto credito, que, «dentro das proximas semanas» se realizarão conversações tripartites, entre a Allemanha, Italia e Russia. Circulos bem informados, por sua vez, julgam que mais tarde o Japão, tambem participará daquellas conversações.

Segundo uma alta fonte nazista, a referida reunião terá por objectivo organizar um «comité de acção», integrado pelas quatro potencias acima mencionadas, afim de tratar de todos os assumptos que lhes interessam.

Edição Brasileira

Traducção dos artigos principaes em lingua japoneza.

A guerra na Europa e algodoeira paulista

São Paulo esta se preparando para iniciar o plauto do algodão da safra 1939-40, a qual, segundo as informações até agora divulgadas, parece que será de volume superior á que acaba de ser colhida.

Em virtude, no entanto, da irrupção do conificto europeu, deve-se pensar com antedencia de mezes na collocação da proxima safra.

A situação politica européa, que repercute profundamente na situação economica do Velho Mundo, não nos permitte antecipar qual será a porcentagem de nossas futuras vendas de algodão á Europa. Desde já, no entanto, poderemos tirar algumas concluções.

A Allemanha, que, pelo menos neste anno e de accôrdo com as ultimas estatisticas, se revelou o nosso melhor comprador europeu, sobrepujando a Inglaterra e a França, difficilmente será um cliente de vulto na safra do anno proximo. Com o seu commercio bloqueado, só poderá abastecer-se de nossa materia prima por intermedio da Italia ou então de outras nações neutras, se essa neutralidade se mantiver.

Por outro lado, a Inglaterra e a França, que sempre foram bons compradores de nosso «ouro branco» enquanto prestistir o conflicto, tratarão, em obediencia a razões comprehensiveis, de intencificar as suas acquisições algodoeiras nos Estados Unidos. Para essas nações, a compra do algodão norte-americano reveste-se agora de aspectos politicos e commerciaes, cuja importancia nos excusamos de accentuar.

Quer isso dizer que hoje, mais do que hontem, o mercado de consumo do Japão se affigura realmente transcendente para São Paulo.

Como não se desconhece, as principaes fontes abastecedores do Japão são, em primeiro logar, a India Britannica, em segundo os Estados Unidos, em terceiro, a propria China. O Brasil, já ha dois annos, vem figranddo em quarto logar no rol dos melhores exportadores de «ouro branco» para o Imperio, como se infere destes algarismos:

Importação de algodão em rama no Japão

India ingleza	783.531	211.516	ton.
Est. Unidos	251.161	207.489	»
China —	23.411	86.917	»
Brasil —	47.885	46.880	»

Examinando-se o quadro supra, verifica-se que diminuiram as acquisições nipponicas aos Estados Unidos e á India de 1937 a 1938. No Brasil, mantiveram-se ellas, porém, escionarias, subindo comtudo, sensivelmente, as suas compras á China.

Quem sabe o empenho em que se encontra o governo de Tokio de desenvolver vastos campos de producção de «ouro branco» no proprio Pacifico e sobretudo na China não ficará surprehendido se, dentro de poucos annos, o campo de producção de sua vizinha occidental attender a parte apreciavel das exigencias da materia prima de seus districtos industriaes algodoeiros.

O Japão, este anno, augmentou ainda mais as suas compras em São Paulo. De 10 de Janeiro a 31 de Julho deste anno, só pelo porto de Santos, já haviamos exportado 60.276 toneladas, muito mais do que para a Allemanha e a Inglaterra, nesse mesmo periodo. Addicionando-se essas 60.000 toneladas ás 40.000 toneladas que, de Janeiro a Julho, se destinaram á China, mas que, na verdade, se encaminharam ás fabricas nipponicas ahi existentes e em funccionamento, teremos esta circumstancia deveras curiosa: do total da exportação paulista nesses sete mezes iniciaes de 1930 — 179.105 toneladas — mais de 100.000 toneladas se deslocaram para o Japão.

Esse facto demonstra, melhor do que qualquer outro argumento, a importancia do mercado de consumo japonez á nossa producção de «ouro branco».

Se a guerra proseguir na Europa, affectando, e grandemente, o nosso commercio algodoeiro com esse Continente, somos dos que pensam que o maior entrelaçamento dos interesses economicos e commerciaes entre o Brasil e o Japão apresentar-se-á como uma necessidade imperativa para ambos os povos. Em materia, então, de algodão, não podemos prescindir do consumo nipponico, sob pena de nos virmos a braços com problemas de solução difficil e complexa.

AS CAPITAES DOS ESTADOS BRASILEIROS, COMO TÊM CRESCIDO DE 1872 PARA CA

Como têm crescido, de 1872 para cá, as capitaes dos Estados brasileiros.

Em 72, era a seguinte a collocação das cinco primeiras:

1 —	S. Salvador	129.109
2 —	Recife	116.671
3 —	Belém	61.997
4 —	Nictheroy	47.548
5 —	Porto Alegre	43.998

Vinham, em seguida, Fortaleza, com 42.458; Cuyabá, com 35.987; São Luiz, com 31.604 habitantes.

Apresentava-se São Paulo, nessa época, em 8.º logar, com 31.385 almas.

18 annos depois, estava a situação modificada:

1 —	São Salvador	174.412
2 —	Recife	11.556
3 —	São Paulo	64.934
4 —	Porto Alegre	52.421
5 —	Belém	50.064

Vemos, por ahi que a chamada «Veneza Brasileira» conservou sua posição, mau grado ter diminuido o numero de habitantes. Piratininga deu um salto vertiginoso, pulando de 8.º para o 3.º lugar. Porto Alegre subiu um ponto. Belém baixou dois. A estatistica assignala decadencia em nove capitaes. Além das já citadas, mais: Cuyabá, Fortaleza, Goyaz, Parahybá, Natal, Nictheroy e São Luiz.

Em 1900, o quadro é o seguinte:

1 —	São Paulo	239.820
2 —	São Salvador	205.813
3 —	Recife	113.105
4 —	Belém	93.560
5 —	Porto Alegre	73.674

Temos, ahi, o crescimento de S. Paulo impulsionado pelas correntes immigratorias, que se avolumaram a partir de 1890. Basta dizer que, no periodo 1890-99, nosso Estado recebeu, por Santos, 735.076 colonos estrangeiros.

E, em 1920?

1 —	São Paulo	579.033
2 —	São Salvador	283.422
3 —	Recife	238.843
4 —	Belém	236.402
5 —	Porto Alegre	179.2 3

18 annos depois, temos:

1 —	S. Paulo	1.233.894
2 —	Recife	529.863
3 —	São Salvador	381.919
4 —	Porto Alegre	338.852
5 —	Belém	309.235
6 —	Bello Horizonte	208.177
7 —	Fortaleza	154.272
8 —	Maceió	143.826
9 —	Nictheroy	134.735
10 —	Curitiba	125.874
11 —	Parahyba	112.809
12 —	Manáos	92.200

As demais têm menos de 80.000 almas. A unica cidade brasileira de mais de 100 mil habitantes (além das capitaes acima) é Santos, que conta hoje, 150.000 almas, população maior que a de 13 capitaes.

Contra a elevação de preços de generos de primeira necessidade

Assignado pelo interventor federal um decreto regulando as medidas que serão adoptadas pelo Estado e municipios

O «Diario Official» publica hoje o decreto n. 10.98, assignado dia 19, pelo interventor federal que autoriza a adopção de medidas contra a elevação de preços de generos de primeiro necessidade,

HITLER PRONUNCIA VIOLENTO DISCURSO EM DANTZIG -2-

Findas as palavras do «gauleiter» Forster, quando écoavam as ovações, o chanceller Hitler usou da palavra para assim discursar:

«Gauleiter» Forster, meus compatriotas de Dantzig: A emoção que vos sacode e vos domina no dia de hoje é a emoção propria de toda a nação allemã. Tambem eu me arrebato neste momento em que pela primeira vez, depois de tantos annos, entro commovidamente nesta cidade, piso neste solo, nesta terra que foi colonizada por allemães 5 seculos antes que os homens brancos houvessem chegado ás terras americanas de Nova York. Por cinco longos seculos que são 500 annos, esta terra foi allemã e por tal ha de ser allemã, que o saibam os outros. O que soffreu Dantzig, antes de a libertarmos agora, o que soffreu toda a Allemanha: um destino negro que lhe traçou a guerra mundial, a guerra mais inexplicavel de todos os tempos, aquella guerra tremenda que só soterrou os vencidos, que não teve vencedores, a guerra que depois de terminada deixou a convicção de que não se reproduzia mais. Mas aquelles que della tinham sido os maiores propagadores e interessados, esquecendo as suas desgraças, dolorosamente, não quizeram que ella fosse a ultima hecatombe, como se suppunha que fosse. Não quizeram, porque, finda aquelle guerra monstruosa, na qual a Allemanha se envolvera sem objectivos bellicosos, quando devia ser dada á humanidade uma paz segura e unica, que solidificasse a liberdade dos povos, o seu direito á vida, á propria resurreição do Direito, eis que em Versalhes impuzeram á Allemanha não a paz mas o designio da guerra, com o retalhamento do seu territorio. Foi a desillução para os que alimentavam a esperança de vêr naquella paz o fim dos soffrimentos e das lutas entre os povos.

VERSALHES FOI APENAS UMA TREGUA

O que succedeu foi uma desillução, e aquella paz não resolveu problema nenhum do soffrimento dos povos, não foi paz, foi apenas e simpresmente uma tregua para que a Allemanha ficasse o encargo de resolver as barbaridades estabelecidas pelos credores do Tratado de Versalhes, os qzuaes elaboraram o referido Tratado preconsebidamente, despreza do a existencia dos povos. Pelo menos a dos allemães, cujos 82 milhões de hoimes anseiam e necessitam viver hije como hontem, como amanhã, mesmo que seja contra a vontade dos fazedores das guerras. Os nossos inimigos insinuam a perfidia de que não pódem acreditar ou ter confiança na palavra dos dirigentes do Terceiro Reich ou nos desejos do povo allemão. Mas foram elles precisamente que deixaram de ter palavra, por que não cumpriram as suas promessas, porque illudiram a Allemanha com o Tratado de Varsalhes. Sabemos que o importante não foi a injustiça feita, mas sim a incensatez de se fazer uma paz que desprezou todos os conceitos e factos historicos, ethunicos, economicos e politicos, que disvoz da vida dos povos de tal maneira que deixaram a gente na duvida de saber se os autores daquella paz, quando a elaboraram, estavam na realidade de posse de suas capacidades mentaes, tamanho e tão irritante foi o seu desprezo pelo desmembramento de paizes, pela distruição das crianças, da cultura, da terra e da economia e dos homens. Foi isso justamente que vos succedeu, compatriotas de Dantzg. A Allemanha foi sacrificada para a existencia do Estado Polonez, que foi producto da loucura dos tratadistas de Versalhes, que regularam na occasião o facto incontestavel, que elles o sabiam bem, de serem os territorios annexados á Polonia, producto exclusivo, ethnico e historico do trabalho allemão, que coopreou sempre para o desenvolvimento dessas regiões.

COMO SE DESENVOLVEU A POLONIA

Desse desmembramento, como era logico, resultaram as necessidades proprias daquellas populações, comprovadas nas eleições levadas a efeito mais tarde. Mas não quizeram attentar para o facto e assim o Estado Polonez foi se desenvolvendo á custa dos territorios desmembrados da Allemanha. Vinte annos decorreram entretanto, e decorridos elles veio á evidencia que não tendo sido creador daquella cultura, naquellas regiões, o polonez não as póde manter, e, se mais annos se passasem, provavelmente os territorio allemães retrocederiam á incultura. A decadencia e a destruição já se manifestavam em todos os pontos, por isso que o Estado Polonez dirizia aquillo, que era allemão, sob a violencia e o militarismo. Em consequencia disso a vida dos allemães nessas regiões tornou-se insupportavel, soffrendo elles as maiores viorencias. Ainda assim eu procurei ardentemente uma solução que fizesse cessar essa injustiça. Fiz isso tanto para a parte occidental como oriental, solucionei a questão das fronteiras occidentaes definitivamente.

(Continua)

家庭の合

四十五タビ

貝原益軒ハ、小サイトキニハ、大ヘンカラダガヨワクテ、ベンキヨウモ、オモフヨウニデキマセンデシタ。少シ大キクナツテカラ、エキケンハ、コレデハイカヌ。ナニヲスルニモ、カラダガヨワクテハヤクニタタヌ。イロ〳〵ノ本ヲヨミ、一生ケンメイヨウジヨウヲシマシタ。アサハハヤクオキ、カカヲズレイスイマサツヲシテ、タベモノニキヲツケ、ヨルハハヤクネテ、キチントキマツタ、クラシヲシマシタ。ソノオカゲデ、カラダハトシトリシダイ、ジヨウブニナリ、八十五マデナガイキヲシテ、タクサンノタメニナル本ヲ、アラワシマシタ。ソノ中ニ「ヨウジヨウクン」トイフ、カラダヲジヨウブニシ、病氣ニカカラヌスシカタヲオシヘタ本ガアリマス。エキケンハ、カラダノヨワイ人ヲミルト、クスリヲノムヨリ、ハヤオキハヤネノクセヲツケ、ナニヨリキマリヲヨクシ、タベモノハドンナモノデモ四十五タビカンデホドヨイヨウジヨウヲセヨ。トオシヘマシタ。四十五タビカメトイフノハ、ナンドモナンドモカミコナセトイフコトデス。ミジカイコトバノ中ニ、ヨウジヨウノ大ジナトコロガイヒツクサレテ、オリマスネ。ミナサン、モオトウサンヤ、オカアサンカラ、カラダダイタ、コノカラダヲ、大セツニシテジヨウブナ、コドモオナリマセウ。

美味しい 落花生バタの拵へ方

マンテイガ代用に愛養価のある安くて美味しいアメンドインバターを拵へてみませう

先づアメンドインの薄皮をむいて叩きつぶし、ひき臼の様なものか擂鉢でよく擂りつぶします。すると豆の油でネツトリとした即成バターが出来上ります。少量の焼き塩と味の素を混ぜ合せてボンにつけて召上つて下さい

御存じですか？

コナ炭の利用法

1、適當な器に入れて、日常の悪い部屋の戸棚の中等に入れておくとカビ臭いにほひを消します

2、果物や野菜の類で香のないものなら紙に包んで粉炭の中へ埋めて置きますと腐敗を防ぎます

3、炭は匂を吸取しますから匂ひのあるものにこの方法は不適當です

4、濕つた炭は日光に當て乾かしますと再び使用が出来ます

家庭建設

家庭の合唱

歌の嫌ひな子供はめつたにありません、ですのに喜んで歌つてゐる子供を頭からうるさいと叱りつけてしまふ方がよくお有りですがこれはチトどうかと思はれます、私達の家庭では歌ひ出すと主人も私もなるべく合唱する様にしてをります、歌つて行く、内容の伴はない言葉はあうむの口真似ゝ同じで自分の考へてゐる事を現し、他人の考へてゐることを理解するための本質の言葉にはならないからです

つた後は私達も楽しい気持になれますし、子供も自然外に出てつまらぬ流行歌等覚える機會がなくなりますし、全然そんなものに興味を持たなくなります、家内中が朗らかに合唱する時は暗い気持も一変に飛んで明るく暮すことが出来ます（一讀者）

昭和の軍神

西住戰車長傳

（第一部 上海上陸）

菊池寛作
伊原宇三郎畫

（93）

戰歷（卅七）

それを、戰車の外側に乘せて歸つて來ると、友軍が喝采したと云ふがそれまでは、敵の戰意が旺盛で、捕虜は逃げ遲れた敵か、一名、二名、時々捕まるだけであつた、敵が集團的に、投降したのは、此の時が初めてであつた

張家樓下宅が、二十一日に陥ち、大場チンは廿六日に陥ちてゐるが當時の戰報に、大場チンの左翼を、皇軍が突破したことが、報ぜられてゐるが、此の歩兵部隊に、戰車隊は、配屬されてゐたわけで張家樓下宅の戰鬪以後は、戰車は、追擊の態勢に移り、二十五日に走馬塘のクリークを突破してゐる、走馬塘クリークは、大場チンを貫いて、東西に流れてゐるクリークだから、北から南へと攻撃してゐる場面に取つて、このクリークを渡つた事は、大場チンの左側背に迫つた事である

二十五日の施宅に於る走馬塘クリーク突破戰は、この方面における大場チン攻略戰の最後の激戰であつた

戰車が、クリークの北岸から、南岸にある掩蓋及び銃眼を、風潮しに猛射して、敵を沈默しめると、勇敢なる鈴木部隊はクリークに飛び込んで、三ヶ所に突如假橋を架設し、煙幕を張ると歩兵は機を失せず、渡河した、敵の掩蓋を後方より掃蕩した

翌二十八日、高橋部隊は、戰車隊の尖兵として、大場チンへ進擊中、命令によつて、鷹森部隊に協力を命ぜられ、張王家宅、朱家橋宅、周徳橋の敵を攻撃した

この三個の村落は、大場チンに次ぐ堅固な陣地で、之れに據つて、最後の抵抗を試みた大場チンに在る主力の退却を掩護する目的らしく、敵の決死隊らしい白襷章を附けた兵が、頑強な抵抗を試みたが、歩兵と戰車との綜合戰力に依て、敵を追走せしめた

敵の中に、白襷章の一隊が、輕機銃をもつて、周徳橋南端の堆土に據り戰車に抵抗し、身を殺して、友軍を取容した、戰車に、輕機銃を撃つのは、蟷螂に斧なのだが、必死の射撃に、連絡路より入つた破片が、高橋隊長の右眼を傷つけた、が、それを最後の抵抗として、この敵は午前中に潰走した

十月二十六日に、細見戰車隊の受た命令は

（戰車隊は、成るべく速かに大場鎮の敵を突破し楊家橋に進撃すべし）

と云ふのであつた。楊家橋とは、大場チンの背後四粁にある區廟鎮道に沿ふた要地である。敵退路を遮斷する為だつた

その命令に依て、大場チンに前進してゐる途中、これは鷹森部隊から、協力を求められ、実に、であつた高橋隊が、主力と別れて前に書いた張王家宅の戰鬪に參加したわけである。が、細見部隊主力の行動は戰車の戰鬪として、痛快を極めてゐるから、その方を少し書いて置かう

午前五時、走馬塘クリークを渡つた主力は、其處で高橋隊と別れ午前七時四十分頃、大場チン——南翔街道に出て井上隊を先頭に、大場チン西端に殺到した

當時歩兵の第一線は、大場チン西側王家池の橋梁附近にあつたが大場チン西端及びその南側よりの射撃が猛烈で、前進困難な状態であつたが、偵察の結果王家池の橋梁が略通過と判断して、井上隊は午前八時四十分敢然橋梁を通過して、大場チン陣地内部に突入した

歩兵も續いて突入した、井上部隊は、大場チン部落内の右往左往せる敵を掃射しつつ勢ひに乘じ、大場チン部落を西から東に押通つて、午前九時十分、一番に大場チン東南端の三叉路に達した。そこから、更に上海街道を上海開北方面に突進した。當時、まだ大場チンの正面陣地は落てゐないのだから、敵陣地の中を横行してゐるわけで、上海街道を南行すること三粁、趙家橋南方に達した。もう三粁も行けば、開北の海軍陸戰隊と最初の握手をすることが出来たのだが、不幸にも先頭の戰車が障碍物を避けて道路側の「クリーク」に陥入した

YAMASHITA LINE
山下汽船株式會社
極東 — 紐育 — 南米 — 定期航路
使用船舶優秀貨物造新型萬噸壹萬

山里丸　山風丸　山月丸 往 十月廿二日 復 十一月六日
山霧丸 往復 九月十九日 十月五日　山浦丸 往 十一月十八日　山彦丸 復 九月十一日

サントス市 JOHNSON LINE AGENCIES
Praça da Republica 22 Telephone 4694 e 5107 Santos
聖市 L. FIGUEIREDO & CIA.
Rua Libero Badaró, 92 – Phone 2-7125 – São Paulo

詳細は左記聖市代理店に御問合せ下さい度候
（貨物船に付き旅客運賃は勝手乍ら御断り申上候）

日本家庭に備えなければならないものは
第一 御宮
高さ 三〇センチ 三十五銭
送料荷作り 三銭
第二 佛壇
（A） 高さ五〇センチ 百二十銭
別に送料荷作り四銭
（B） 高さ五〇センチ 百銭
（送料荷作共）
其の他三寶、位牌、骨箱、經机、ローソク立、線香、佛壇用ローソク等一切
時報商事部

製油原料 日廻草（ジラソール）
大豆、胡麻、マモナ 等 其他
委託販賣に應じます、見本を送附し價格を問合せ下さい
時報商事部

M. PASSOS
外國人査證 商店調査 公認登録 諸書類複寫
其の他迅速に取扱ひます、御照會は左記へ
パッソス
聖市アベニーダ・サンウロン五九三番一階三號室
電話四・九二九三
郵函三八九四